

9/11 五曜

原発汚染水

海に「放出しかない」

原田環境相が無責任発言

原田義昭環境相は10日の閣議後記者会見で、東京電力福島第一原発のタンクにたまり続けている処理後の高濃度放射性物質トリチウムを含んだ汚染水について、「(海に)放出して希釈するしか方法がない」と述べました。汚染水の扱いは環境省の所管外であること

とに触れ、「これから政府全体で慎重に議論すると思うので、単なる意見として聞いてほしい」とも付け加えました。汚染水の扱いについては、地元や周辺国から懸念が出ています。原田環境相の発言は原子力災害への国民の不安を軽視した無責任な発言です。

原田環境相は「原子力規制委員会の委員長も『安全性、科学性がらすれば大丈夫だ』と言っている」と指摘。放出に伴う風評被害や漁業への影響については「国があらゆる努力をする」とも極めて大切だ」と述べつつ「何が今の国家に必要なことか」ということも、常

に考えないといけな「い」などと主張しました。韓国などが海洋放出を強く警戒していることに関しては、「いろいろ意見が出るだろうが、しっかり科学に基づいて誠意を尽くして説明することが大切だ」と強調しました。東電は、福島第一原

発で増える高濃度の放射性物質を含んだ汚染水の保管タンクが、現状のままでは2022年夏ごろに満杯になるとの見通しを示しています。政府の8月の専門家会合では、薄めて海に放出する案など5つの処分方法に加え、タンクへの長期保存が正式の議題となりました。出席委員からは東電が敷地の不足を主張していることについて「タンク設置場所は、まだまだ敷地内にあるではないか」という疑問や「長期保存には、敷地を拡張するのが早い」という提案が出されました。

「軽率」「間違いだ」

福島県の漁業関係者怒り

東京電力福島第一原発から出る放射性物質トリチウムを含んだ汚染水について原田義昭環境相が「(海に)放出

存が正式の議題となり、出席委員からは東電が敷地の不足を主張していることについて「タンク設置場所は、まだまだ敷地内にあるではないか」という疑問や「長期保存には、敷地を拡張するのが早い」という提案が出されました。

「一貫して海洋放出に反対してきた県漁業協同組合連合会(県漁連)の野崎哲会長は、「立場上、軽率な発言だ」と批判。汚染水の処分方法は政府の小委員会が時間をかけて検討してきたことから、「冷静な議論を行ってほしい」と求めました。いわき市の小名浜魚市場の運営に携わる小名浜機船底申網漁業協同組合の柳内孝之理事は、「(小委員会)で議論が進む中で『これしか方法がない』と決めつけるのは、(やり方

が)間違っている」と憤りました。